

PRAEVIDENTIA DAILY (2月2日)

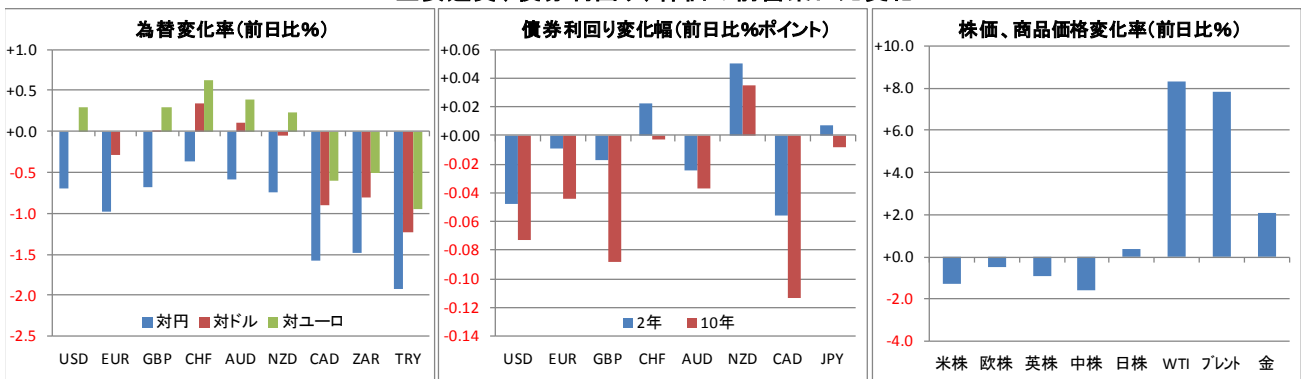
昨日までの世界：米景気腰折れリスク？

先週金曜は、米 4Q GDP の予想比下振れ（前期比年率+2.6%）を受けて、米中長期債利回りや米株価の下落と共にドル/円が大きく下落、118 円台前半から一時 117.28 円へ下落したのが特徴的だった。もっとも、ドルは全面安という訳ではなく、対主要通貨ではまちまちで、むしろ対ロシアルーブル、ブラジルリアル、トルコリラなど新興国通貨ではドルが大きく上昇した。ロシア中銀が政策金利を 2%ポイント引下げ 15%としたことから、他国でも競争的な利下げが行われるのではという懸念に繋がった面があったようだ。あるいは、世界景気の牽引役である米国経済の鈍化の場合、新興国への悪影響が大きいという見方もあったかもしれない。但し、米経済指標では、4Q 雇用コスト指数は前期比+0.6%、前年比+2.3%と上昇を示すなど悪い材料ばかりではなかった。

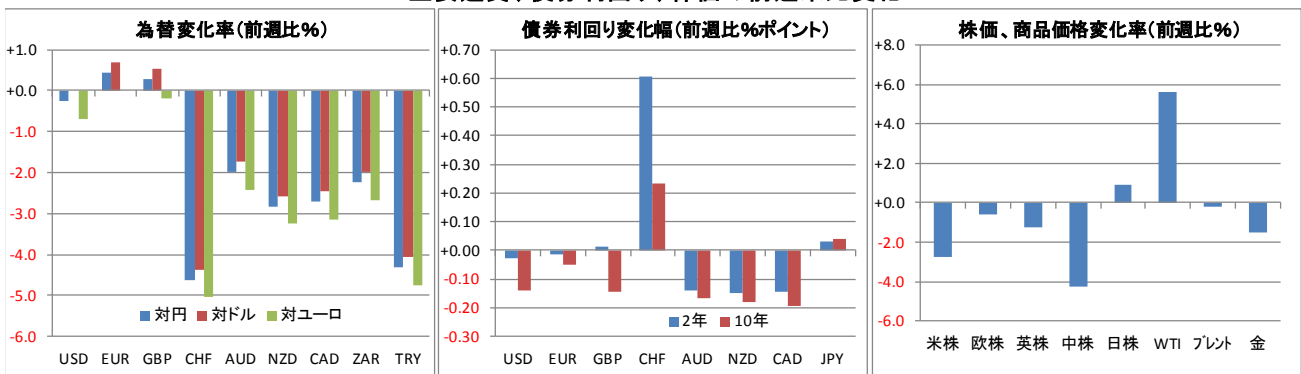
ユーロは、ギリシャの Varoufakis 財務相が現地入りしている EU と IMF の調査団に協力しない、と発言したことから売り圧力を受けた。衝撃的なニュースに聞こえるが、織り込み済みであったのか、ドル安材料があったこともあって、ユーロ/ドルの下落は 1.13 ドル台前半から 1.12 ドル台後半への小幅な下落に留まった。

カナダドルは、原油価格が大きく反発したにも拘らず、カナダ 11 月月次 GDP が予想外に前月比-0.2%とマイナス成長となったことから、対米ドルで大きく下落した。この間、豪ドルや NZ ドルは対米ドルでほぼ横ばい圏内の動きに終始した。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



主要通貨、債券利回り、株価の前週末比変化



きょうの高慢な偏見：Fed もハトバスに乗るか？

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、EUR↓、AUD↓

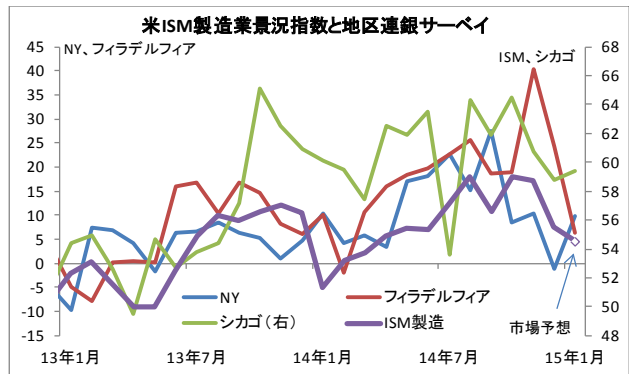
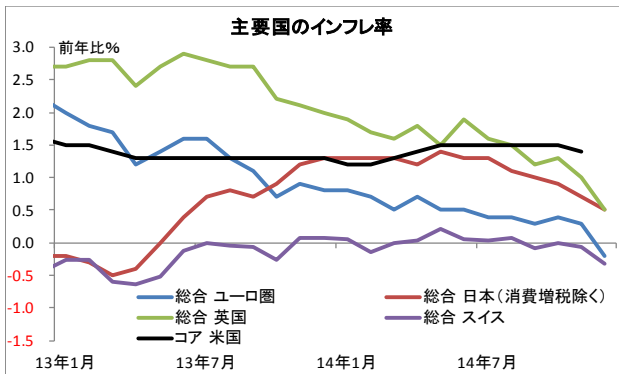
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 1 月 HSBC 製造業 PMI 確報	10 : 45	49.6		速報は 49.8
英 1 月製造業 PMI	18 : 30	52.5	52.6	
米 12 月コア PCE デフレーター前年比	22 : 30	+1.4%		
米 1 月 ISM 製造業景況指数	0 : 00	55.5	54.5	
米予算教書発表				

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円については、先週金曜に米 4Q GDP が予想を下振れ前期比年率で 2% 台へ減速したことから、今後の経済指標も下振れリスクを意識した展開となりそうだ。本日はコア PCE デフレーターと ISM 製造業景況指数が発表予定で、インフレ指標は原油などエネルギー価格の下落を受けて世界的に下振れ傾向となっているほか（**下図を参照**）、ISM 製造業景況指数も前月からの悪化が予想されており（**下図を参照**）、いずれもドル安リスクを示している。この場合、今のところは維持されている 6 月 FOMC での利上げ開始シナリオがより明確に修正され、利上げ開始時期予想が後ずれしてくるリスクがある。

ユーロは、ギリシャの対トロイカ債務交渉における強硬姿勢が引き続き嫌気される可能性があり、上値の重いドル/円を考慮すると、ユーロ/円が下落し易そうだ。

豪ドルは、週末発表の中国 1 月製造業 PMI（前月 50.1、実績 49.8）、同非製造業 PMI（前月 54.1、実績 53.7）といずれも前月から悪化したことから、中国の景気モメンタム鈍化リスクが意識され、鉄鉱石などのコモディティ価格下落を通じて重石となりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641